

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	長野県	市町村名		大学名	
派遣日	日時：令和3年9月21日（火曜日） 13：00～16：00 日程：13:00～13:30 入室（受付） 13:30～13:40 開会式 13:40～15 30 研修（質疑応答を含む） 15:30～15:40 閉会式・アンケート記入（Google フォームによるアンケート）				
実施方法	派遣 / (遠隔)				
派遣場所	Zoomによる遠隔での講義のため派遣先はなし ※詳細については別添実施要項を参照				
アドバイザー氏名	齋藤 ひろみ				
相談者	長野県内の日本語指導教員及び外国籍等児童生徒支援教員				
相談内容	<p>○日本語指導教員の専門性向上</p> <ul style="list-style-type: none">・配置されている日本語指導教員 41 名の中で中央研修を受講した教員は 4 名（令和 3 年 4 月現在）。研修受講者による伝達の機会を設けていくことともに、研修の機会を増やしていくことで、日本語指導教員全体の指導力の向上を目指していく必要があること。 <p>○研修内容の焦点化</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語指導について経験が浅い教員からベテランの教員まで幅があることから、研修内容の焦点化が難しいこと。 <p>○市町村（組合）教育委員会との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・県主催の研修会を市町村教育委員会の担当者にも周知しているが、担当者の参加は一部に限られている。支援体制の構築のため、市町村教育委員会との連携を充実させていきたいところ。				
派遣者からの指導助言内容	<p>○「多様な言語文化背景をもつ子供の日本語教育－初期段階の指導を中心に－」（オンライン会議システム Zoom による遠隔での講義）</p> <ul style="list-style-type: none">・豆の木モデルを紹介していただき、外国人児童生徒等教育の担当教員の資質・能力について全体的なお話をいただいた。・児童生徒のための日本語教育のコース設計として、「学校・社会生活」「学習・認知面の発達」「アイデンティティ形成・自己実現」の 3 つの側面を具体的な日本語指導として考え、コースデザインを作成していくことの必要性と具体的な作成例を示していただいた。・具体的な指導場面については、初期段階の指導場面のうち「サバイバル日本語」と「日本語基礎」の内容を中心にお話いただいた。例えば、「～したい」という文型指導の場面では、齋藤先生の模擬授業に参加者が生徒役で参加し、参加者は実演をとおして具体的な指導場面を理解することができた。・ブレイクアウトセッションの機能を使って、小グループに分かれて、受講者それぞれの事例を共有する時間を作っていただいた。グループ編成については、経験年数				

	<p>が近い人同士を一緒にするとよいというご助言を齋藤先生からいただき、各グループで経験に応じた情報共有を行うことができた。</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>○参加者について（全 55 名中） 内訳：日本語指導教員 30 名、外国人児童生徒等支援教員 6 名、市町村支援員 19 名 経験年数：1 年目 18 名 (32.7%)、2 年目 4 名 (7.3%)、3 年目 7 名 (12.7%)、 4 年目 3 名 (5.5%)、5 年目以上 23 名 (41.8%)</p> <p>○事後のアンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none">・「日本語指導教員及び外国籍児童生徒支援教員の役割について分かった／理解が深まった」<ul style="list-style-type: none">ア そう思う 41 名 (74.5%)イ どちらかと言うとそう思う 14 名 (25.5%)ウ どちらかというと思わない 0 名 (0%)エ そう思わない 0 名 (0%)・「日本語指導の初期段階の指導について分かった／理解が深まった」<ul style="list-style-type: none">ア そう思う 43 名 (78.2%)イ どちらかと言うとそう思う 12 名 (21.8%)ウ どちらかというと思わない 0 名 (0%)エ そう思わない 0 名 (0%)・「今後の日本語指導について見通しがもてるようになった」<ul style="list-style-type: none">ア そう思う 25 名 (45.4%)イ どちらかと言うとそう思う 27 名 (49.1%)ウ どちらかというと思わない 2 名 (3.6%)エ そう思わない 0 名 (0%) <p>○受講者の感想（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none">・コースを設定し、系統立てて日本語教育を進めた方が、教師にとっても分かりやすいと思います。テキストや日々のロールプレイを大切にこれからも指導していきたいです。・決まった教科書がなく、子どもの背景も様々なため、コースデザインは曖昧にしがちでしたが、改めて計画的な指導の必要性を認識しました。・サバイバル日本語、日本語の基礎、技能別日本語、教科と日本語の統合学習を、子供の実態に合わせてどのように組み合わせしていくのかしっかりと計画を立てること、またその際、日本語学習はゼロスタートであっても、子供の持っている素地（力）を捉え生かしていくことの必要性を改めて感じました。・今年から日本語支援の担当教員として仕事をさせていただく中で、何から手をつけてよいか分からないことが多々ありました。生徒の実態を把握した上で、コース設定を行うことの重要性を実感しました。まず、DLA から実施してみたいと思います。・国語指導と日本語指導が混ざってしまっていた点が多々あったので、日本語指導の内容の見直しを図っていきたいと思います。3つの側面を見直したうえで、個に応じた内容を考えていきたいと改めて感じました。また、場面設定や反復練習、ゲームのような特徴等も取り入れながら、考えさせる活動を取り入れていきたいです。

	<p>○今後の取組方針等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 定期的な DLA 評価により計画的な指導を行うことの必要性を実感した人が増えてきていることから、演習的な内容を研修会で扱う。・ 日本語指導や児童生徒支援にあたる先生方の経験年数や置かれている状況は多様であることから、基本的な内容について学ぶ機会は引き続き提供していきたい。また、教育事務所主催の研修会ではグループによる情報交換の場を設けていくことを依頼する。・ 理論的な内容は理解できても、実践的な部分で指導に自信が持てなかったり、周囲の協力が得られなかったりする先生方が一定数いる。校内での支援体制の構築が促進されるよう、教育事務所主催の研修会では管理職の先生方にも参加を促していくことを依頼する。・ オンラインを活用して、日本語指導教員が交流したり互いの実践を検討し合ったりすることができるように研修の仕組みづくりをしていきたい。・ 講師の齋藤先生には、長野県の日本語指導教員の課題に応じたお話をしていただいた。受講者の中には、もっと学びたいという意欲をお持ちの先生方も多くおられるので、参集が可能であれば、模擬授業を互いに見合うなど演習的な研修等が先生方の実践力の向上につながると考える。齋藤先生には長野県の日本語指導の充実のために、引き続きお力をいただきたい。
--	---

1枚にまとめる必要は、ありませんので、詳細に記載願います。なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。